

## 青少年相談員連絡協議会の事業

青少年相談員連絡協議会は、県内の全ての市町村で活動しています。4,166人の青少年相談員が、青少年の健全育成を促進するため、各地域の特色を生かしたさまざまな事業を実施しています。

旭市では72人の青少年相談員が、通学合宿、パークゴルフ大会、海上キャンプ場宿泊体験などの事業を通し、市内の児童生徒と交流を図りながら活動しています。

今回は特に人気の高い「海上キャンプ場宿泊体験」について紹介します。

## 海上キャンプ場宿泊体験

海上キャンプ場宿泊体験は、旭市青少年相談員の主催事業として、市内の小学校4年生から6年生の児童を対象に開催しています。

今年は7月20日(土)、21日(日)に開催され、市内の小学校9校から44人の児童が参加し、青少年相談員とキャンプを楽しみました。初日はテント張り、野外炊事、キャンプファイヤーを行い、2日目は竹コップ作り、バーベキューなどで交流を深めました。

初めて会う児童同士が多く、最初は参加者のほとんどが緊張してぎこちない様子でしたが、青少年相談員が間を取り持つことで次第に会話が弾み、みんな仲良く協力

して活動することができました。



協力してテントを張る

## 宿泊体験を終えて

参加した児童からは「違う学校の子と友だちになって良かった」「楽しかった、来年もまた参加したい」といった感想が聞かれました。

みんなで協力して活動するこの体験が、子どもたちの交流や健全育成の場になっています。



みんなそろって集合写真

## あさひ輝いた人々 第13回

### 大漁! 揚繰網の発明

石橋 太郎兵衛 (左)  
(1848~1922年)



千本松 喜助 (右)  
(1852~1915年)

石橋太郎兵衛、千本松喜助は揚繰網を発明したといわれています。以前の地引き網より大量に魚を取れるようになり、旭だけでなく日本の漁業の発展に貢献しました。

江戸時代、漁業が盛んになると、九十九里浜でも盛んにイワシ漁が行われました。そのころは地引き網が中心で、海岸に近づいてくる魚の群れを待って網を打ち、陸地で両方から人が引っ張って魚を取っていました。漁場は海岸近くのごく限られた所だったのです。

明治時代になって揚繰網が発明されると、漁獲高が一気に増えました。揚繰網とは二艘の船の間に網を張り、魚の群れを包み込むように左右から囲み、徐々に真ん中へ追い込み、魚を取る漁法です。

石橋は明治21(1888)年に、船橋地方の六人網といわれる漁法を改良して、揚繰網を発明したといわれています。千本松は長年研究を続け、同年に揚繰網を使用したといわれています。その後、千本松は積極的に普及活動を行い、日本全国で講演活動を行いました。そのため揚繰網は日本全国に普及したといわれています。

昭和43(1968)年に明治百年を記念し、農林水産業へ貢献したとして財団法人日本農林漁業振興会から石橋、千本松両家に顕彰状が送られました。

揚繰網を発明した人は誰か諸説ありますが、平成8(1996)年に「揚繰網発祥之地」という記念碑が、地元漁業関係者の総意で椎名内の海岸に建てられました。旭市が揚繰網発祥の地といわれたのは、この二人がいくつもの困難を乗り越え、発明、普及に尽力したからでしょう。

当時、日本の漁業を大きく変えた揚繰網の発明。この偉業を成し遂げた人が旭市にいたのです。



「揚繰網発祥之地」の記念碑